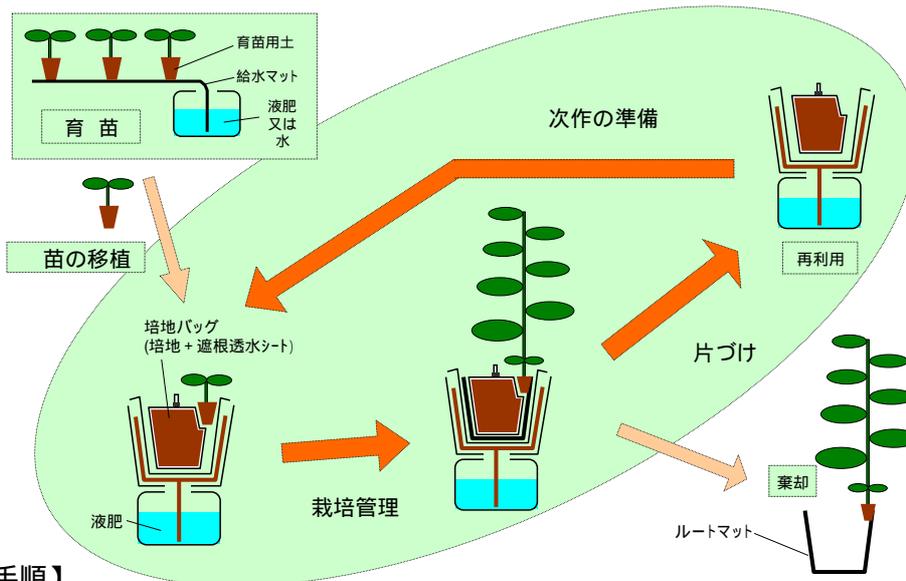


培地バッグ技術を導入した高糖度トマト生産方式

園芸研究所

【技術導入のメリット】

ばらつきの少ない品質が安定した高糖度トマトを生産することができます。
肥培管理が簡便なので、技術の習得が容易です。
排水が生じないので、環境保全にも役立ちます。



【作業手順】

底面給液法で育苗した少量培地苗を、栽培プラントへ移植します。
移植後は、底面給液法による肥培管理を行い、3段収穫の密植栽培を行ないます。
収穫が終わったら、作物残渣を栽培プラントから除去し棄却します。
培地バッグを含めた栽培プラントは、維持管理をしながらくり返し栽培に利用します。

底面給液法を用いると、40ミリリットルの少ない培地量でも、長期間に渡って育苗を続けることが可能になります。

培地バッグと栽培ポットの間にはルートマットと呼ばれる根塊が形成されます。培地バッグは繰り返し利用できるため、後片付けが省力化されます。



培地バッグ技術の導入には、県の許諾が必要となります。

< 問い合わせ先 ; 園芸研究所野菜研究室 電話 0299-45-8341 >